

# 民生委員制度創設 100周年記念誌



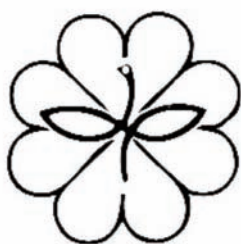
■室蘭市民生委員児童委員協議会 100周年記念事業スローガン

## 地域と共に 100年 これからも

平成29年12月

室蘭市民生委員児童委員協議会

# 支えあう 住みよい社会 地域から



(民生委員・児童委員のマーク)

幸せのめばえをしめす  
四つ葉のクローバーをバックに、  
民生委員の「み」の文字と  
児童委員をしめす双葉を組み合わせ、  
平和のシンボルの鳩をかたどって、  
愛情と奉仕をあらわしています



室蘭市民生委員児童委員協議会 会旗

## 民生委員児童委員信条

- 一 わたくしたちは隣人愛をもって  
社会福祉の増進に努めます
- 一 わたくしたちは常に地域社会の  
実情を把握することに努めます
- 一 わたくしたちは誠意とこづつてあらゆる  
生活の相談に応じ自立の援助に努めます
- 一 わたくしたちはすべての人と協力し  
明朗で健全な地域社会づくりに努めます
- 一 わたくしたちは常に公正を旨とし  
人格と識見の向上に努めます

# 目 次

■ 室蘭市民生委員児童委員協議会会旗、信条	表紙の内側
1. 室蘭市民生委員児童委員協議会 歴代会長	1
2. 制度創設100周年記念によせて 室蘭市民生委員児童委員協議会 会長 上野 正春	2
3. 祝辞 創設100周年記念誌発刊によせて 室蘭市長 青山 剛	3
創設100周年を祝って 室蘭市社会福祉協議会 会長 山中 正尚	4
4. 民生委員児童委員協議会の歴史 (1) おいたち（創設経緯）	5
(2) 100年のあゆみ（年表）	6
(3) 室蘭市人口の推移	11
5. 室蘭市民生委員児童委員協議会の重点取り組み (1) 高齢者実態調査	12
(2) 住民支え合いマップ調査	13
(3) 認知症早期発見プロジェクトチーム	14
(4) 共同募金	15
(5) オジャマコール	16
(6) 子育てサロン	17
6. 各地区民生委員児童委員協議会の活動	18
7. 部会の活動	30
8. 叙勲および厚生労働大臣表彰の受賞	33
9. 100周年記念事業 (1) 記念式典・祝賀会	34
(2) 行事	35
10. エッセイ 明るい未来へ向けて	36
■ 編集後記	39
■ 測量山ライトアップメッセージ、室蘭市いきいき明るい福祉都市宣言	裏表紙

## 1. 室蘭市民生委員児童委員協議会 歴代会長



齊藤 豊氏  
昭和43年12月～昭和52年11月



奈良 大道氏  
昭和52年12月～昭和58年11月



対馬 唯雄氏  
昭和58年12月～昭和61年11月



館山 彰氏  
昭和61年12月～平成4年11月



武岡 昭吉氏  
平成4年12月～平成15年11月



山根 克巳氏  
平成18年12月～平成19年11月



益子 博氏  
平成19年12月～平成22年11月



中島 千秋氏  
平成15年12月～平成18年11月  
平成22年12月～平成27年8月



上野 正春氏  
平成27年8月～現在

## 2. 制度創設100周年記念によせて

室蘭市民生委員児童委員協議会

会 長 上 野 正 春



民生委員児童委員のルーツを辿ると、大正6年、物価上昇により日常生活が低下し特に米価の高騰が住民の大きな負担となり貧困が増大している現況に岡山県知事は事態の重大性を鑑み、防貧対策として「濟世顧問制度」を創設、篤志家中心に防貧活動を展開し、要保護者の心身の健全化を図り、職を与え就労を促進し自立更生に導く活動を地域で実施したのが源とされています。

室蘭市は大正11年4月に全道に先駆けて「室蘭方面委員」を設定し、今日の民生委員にあたる方面委員を、そして昭和21年9月には「民生委員制度」を設置、昭和23年1月児童福祉法公布により児童委員兼務となりました。

今、私たちが100年の歴史を紐解くとき、先達諸氏が時代時代の社会変化と共に市民が直面する生活課題も様々に変化したなか、いつの時代にあっても「良き隣人」として寄り添い、身近な相談相手となり行政などへの繋ぎ役として多くの信頼の基で100年の職責を残されましたことに、心から敬意を払い尊敬いたす次第です。

私たち現職者は、この輝かしい伝統を引き継ぎ活動しておりますが、急速に進む少子高齢化や地域社会の変化から生活困窮世帯、社会的孤立状態世帯、子供の貧困、認知症の対応等など深刻で厳しい状況が生まれております。昔日同様、様々な問題が惹起しているなかで、このような困りごとを抱える人々に寄り添い課題解決の支援をしていかなければなりません。くじけず、仲間や行政そして諸機関団体と連携を図り、職務の重大性を厳粛に受け止め、世論に目や耳を向けて地域の状況を把握するとともに住民からの相談事項を各種支援制度や施策に繋ぐためにも、それらを適切に理解するための弛まぬ研鑽が重要であります。

民生委員制度創設100周年にあたり当協議会は記念事業として記念式典・祝賀会、記念誌発行、記念事業の3部会を組織して取り組んできました。とりわけ記念誌発行は、初事業であり記録や諸資料に乏しく100年の史実の再現には程遠いと覚悟のうえ、なんとしても後世に室蘭の100年の歩みを残したいとの強い思いで編集委員一同が最大の努力を重ね完成の運びとなりましたが、室蘭市民生委員児童委員協議会独自のスローガン「地域と共に 100年 これからも」、全国スローガン「支えあう 住みよい社会 地域から」のもと、先達の努力と情熱で築いた100年、その上に立脚して「誰もが笑顔で安全に安心して暮らせる社会」の実現に向けて新たな歴史の一步を踏み出す強い決意で邁進いたしましょう。皆々様の益々のご健勝、ご多幸をご祈念いたします。

### 3. 祝 辞

## 創設100周年記念誌発刊によせて

室蘭市長 青 山 剛



民生委員制度が創設され100周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

室蘭市史によりますと、本市では、全道各市に先駆けて大正11年4月1日に「室蘭市方面委員規定」を設定し、方面委員の制度を設けたことが民生委員の始まりです。方面委員はその後、保導委員と名を変え、貧困者の救済や虐待児童の保護、震災時の救護活動、義捐金の募金活動などにおいて活躍。昭和21年9月には国が民生委員令を制定し、同年12月1日付けで厚生大臣より130名の民生委員が本市で委嘱発令されました。最近では、平成28年4月に発生した熊本地震への義捐金のため、室蘭市民生委員児童委員協議会が街頭で募金活動を実施するなど、大正6年に岡山県で民生委員制度が創設されて100年経った今も当初の精神は脈々と受け継がれていることが実感され、この制度を支えてこられた民生委員・児童委員の皆さまに対して、改めて敬意を表する次第です。

近年、国の高齢化率は27%を超え、超高齢化社会が形成されつつあります。少子高齢化が急速に進む中、福祉を取り巻く環境の変化とともに、福祉行政に関する住民ニーズは多様化しており、民生委員・児童委員の皆さまの役割は、より一層重要なものとなっております。本市においても高齢化率は36%を超え、高齢者実態調査の結果をみてもひとり暮らし高齢者が増加傾向にあるため、家族や地域社会から孤立した方が増えてしまうのではと危惧しているところであります。このような中で、行政が担いきれないあらゆる相談や高齢者の安否確認、高齢者虐待への適切な対応、さらには地区民生委員児童委員協議会によっては、サロンの運営や支え合いマップの作成など、地域福祉の推進に大きな役割を担っていただき、大変心強く感じているところであります。

また、主任児童委員の皆さまにおかれましては、乳幼児健診を受けられなかった子のいる家庭を訪問いただき、児童虐待や支援の必要な家庭の早期発見につながるなど、児童福祉の向上にご協力いただいているところです。本市では子育て世代に選ばれるまちを目指し、遊び場の整備や講座の開設、子育て情報誌“こらん”の作成などに取り組んでいるところでありますが、さらに子育て支援のブランド化を推し進めるためには、引き続き、皆さまのお力添えが欠かせないと感じているところであります。

本市といたしましても、市民に約束した「誇れる室蘭」に向けた市政運営のなかで、福祉施策の推進に尽くす所存でございますので、民生委員・児童委員の皆さまにおかれましても、福祉の向上に、なお一層のご活躍を期待しております。

結びにあたり、皆さまのご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

## 創設100周年記念を祝って

室蘭市社会福祉協議会

会 長 山 中 正 尚



民生委員制度創設100周年を迎え、これまでの歴史を記した記念誌を発行されますことは誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

民生委員制度は創設以来、戦前戦後の混乱と激動する社会情勢を反映し幾多の変遷を経ながら、人間愛、社会愛にもとづく民間福祉の担い手として最も歴史があり、地域の人々から生活の事や家族の事など様々な悩み事に常に住民の立場に立って最も身近な相談役として力を尽くして来られました。特に、生活保護や生活困窮者対策には大きな役割を果たすと共に、一人暮らしの高齢者や障がい者等の訪問見守り、高齢者や児童虐待、配偶者等からの暴力等の新たな社会課題に対しては、地域住民はじめ関係機関・団体などと連携を図り解決の中心的な役割を果たして来られました。

これらの先人によって受け継がれてきた歴史と伝統に敬意と感謝を申し上げます。

また、近年は人口減少、少子高齢化の進展、そして、地域における人々の繋がりが希薄化する中、住民の福祉課題、生活課題が更に多様化・深刻化しておりますし、東日本大震災後も自然災害が相次いで発生しており、このような時こそ地域における住民同士の支え合いの仕組みづくりが重要となる中、住民の最も身近な存在であります民生委員・児童委員への期待は一層大きなものと考えております。

今後は、地域での揺るぎない信頼のもと、民児協の抱える課題の克服も含め、社会福祉における地域の第一人者として、私共、社協や多くの皆様方との応援と連携により「誰もが、笑顔で、安心して、生活できる地域づくり」に向け、更なる第一歩を踏み出して頂きたいと考えております。

結びにあたり、室蘭市民児協の益々のご発展と、皆様方のご健勝・ご多幸を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## 4. 民生委員児童委員協議会の歴史

### (1) おいたち（創設経緯）

#### ①全国

##### 【大正6年5月の濟世顧問制度が出发点】

大正3年7月に第1次世界大戦が勃発し、その影響を受けてわが国の産業界、経済界は好況を呈しました。しかし、一方ではこれに伴い物価が上昇し、国民生活は大きな影響を受け、とくに米価の高騰は住民の大きな負担となり貧困の増大となっていました。事態の重大性を痛感した岡山県知事は防貧対策について考察を重ね、大正6年5月に「濟世顧問制度」を創設しました。

この「濟世顧問制度」は民生委員の源といわれ、囑託を受けた濟世顧問は、防貧活動に力点をおき、要保護者の心身の健全化をはかりながら職を与え、生業に就かせることで自立更生に導く活動を地域で展開しました。

##### ※参照資料

・「民生委員児童委員活動の手引き」

平成28年度版 89ページ 発行・編集 北海道民生委員児童委員連盟

・道民児連ブックレット「林 市蔵」（民生委員制度の原型「方面委員制度」創設者）

A5版 32ページ 発行・編集 北海道民生委員児童委員連盟

#### ②北海道

大正11年に、北海道訓令により保導委員設置規定を公布し、札幌、小樽、函館、旭川、釧路、室蘭に保導委員176名を設置しました。

##### ※参照資料

・「民生委員児童委員活動の手引き」

平成28年度版 92ページ 変遷年表 発行・編集 北海道民生委員児童委員連盟

#### ③室蘭市

室蘭市は大正11年4月に、全道各市にさきかけて「室蘭市方面委員規定」を設定し、今日の民生委員にあたる方面制度を設けました。

昭和21年9月には民生委員制度を設置し、12月に130人の委嘱を発令しました。昭和23年になり、民生委員は児童委員も兼務することになりました。

##### ※参照資料

・「新室蘭市史」 第4巻 第1章 社会福祉



(2) 100年のあゆみ(年表)

室蘭市		全 国・北海道	
明治5年	○室蘭港開港		
明治6年	○元室蘭に官立病院開設		
明治9年	○常盤学校開校		
明治14年	○天皇陛下室蘭市御巡幸		
明治20年	○輪西村屯田兵110戸入植		
明治22年	○同上屯田兵第2陣110戸入植		
明治30年	○輪西～室蘭間鉄道開通		
明治33年	○室蘭町誕生(人口5,461名)		
明治37年	○室蘭婦人赤誠会結成(会長 最上谷スミ)		
明治40年	○日本製鋼所創立		
明治42年	○北海道炭鉄汽船輪西製鉄場(現在の新日鐵住金(株)室蘭製鐵所) 設立		
明治44年	○明治天皇の皇太子様(後の大正天皇) 室蘭市御巡幸		
大正6年	○室蘭中学校(現・室蘭栄高校) 開校	大正3年	○第一次世界大戦開戦
		大正6年	○岡山県で民生委員制度の源といわれる「済世顧問制度」が発足
		大正7年	○大阪府で「方面委員制度」が発足 ○第一次世界大戦終戦
大正9年	○チキウ岬灯台点灯	大正9年	○第1回国勢調査
大正11年	○全道各市に先駆けて「室蘭市方面委員規定」を設定。今日の民生委員にあたる方面制度を設けた ○室蘭市市制施行 ○大正天皇の皇太子様(後の昭和天皇) 室蘭市御巡幸	大正11年	○札幌、小樽、函館、旭川、釧路、室蘭に保導委員176名設置
		大正12年	○関東大震災
		昭和2年	○第1回全国方面委員会議を東京開催。方面委員に関する法規定方建議可決
		昭和3年	○方面委員制度が全国に普及
昭和6年	○室蘭母の会設立 ○私設託児所施設「室蘭愛児園」が泉町(現海岸町)に開園	昭和6年	○北海道方面委員規定制定。349名の保導委員を廃止
		昭和7年	○救護法施行 ○全道市町村の1,734名に方面委員発令 ○全日本方面委員聯盟発足
昭和9年	○室蘭市方面事業助成会設立	昭和8年	○北海道方面委員会結成 ○北海道連合婦人会設立
昭和11年	○室蘭市紋章制定(蘭花中心に口の字6つ) 昭和天皇室蘭市御巡幸	昭和11年	○方面委員令公布(施行は昭和12年1月15日。任期は4年)。全国統一的に運用される ○北海道方面委員会を北海道方面委員連盟と改称

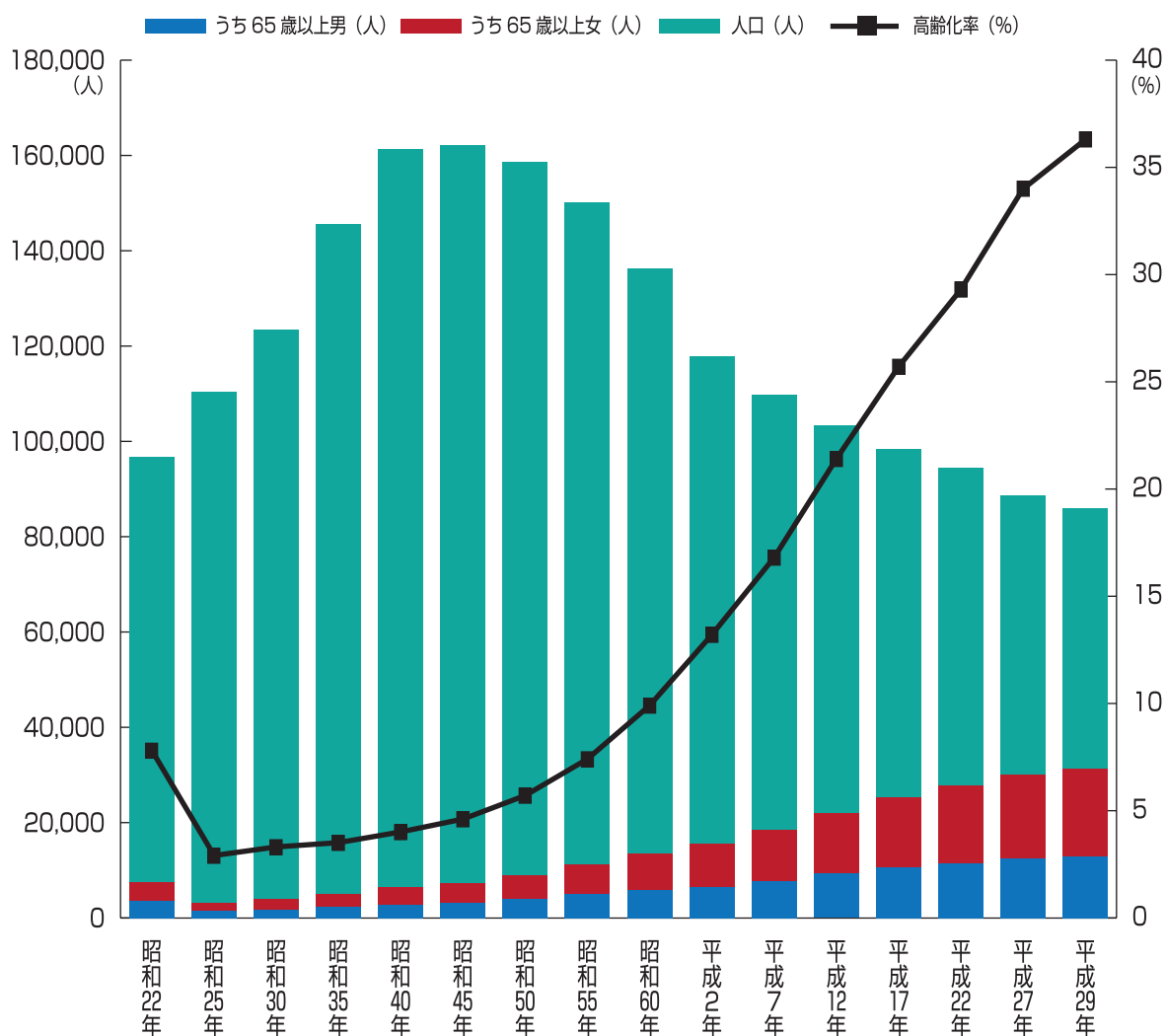
室蘭市		全 国・北海道	
昭和13年	○室蘭方面委員常務委員連合会開催	昭和12年	○救護法改正。方面委員が市町村長の補助機関となる ○北海道方面委員慰霊碑建立(以来6月12月に毎年行う)
昭和21年	○室蘭市民生委員推薦委員会設置 ○民生委員制度の設置。130人へ委嘱発令 ○市内を10地区の民生委員協議会に区分し、民生委員常務委員協議会を設置(委員長・村田佐一郎)	昭和13年	○厚生省設置 ○社会事業法公布
昭和22年	○北海道民生委員連盟室蘭支部(支部長・村田佐一郎)結成 ○民生委員が主体となって室蘭市社会事業共同募金委員会発足。赤い羽根募金始まる	昭和14年	○第二次世界大戦開戦
昭和24年	○第1回成年式(後の成人式・祭) ○母子の会結成(会長 土井美恵)	昭和16年	○太平洋戦争開戦
昭和25年	○室蘭市社会事業共同募金委員会が室蘭市共同募金委員会として改組	昭和17年	○全国第1回婦人方面委員協議会(東京都)
昭和26年	○小学校一斉完全給食実施 ○室蘭市福祉事務所開設	昭和20年	○第二次世界大戦終戦 ○太平洋戦争終戦 ○共同募金運動創設
		昭和21年	○北海道社会事業連盟結成 ○民生委員令公布。方面委員を民生委員と改称 ○生活保護法施行。民生委員は生活保護実施の補助機関となる ○全日本民生委員連盟(全民連)発足(全日本方面委員聯盟を改組) ○第1回全国民生委員大会(京都府) ○生活困窮者緊急生活援護要綱施行
		昭和22年	○民生委員徽章を全民生委員に交付 ○社会共同募金中央委員会発足 ○北海道方面委員連盟が北海道民生委員連盟(道民連)として再発足 ○児童福祉法公布(民生委員は児童委員に充てられる)
		昭和23年	○民生委員法制定・公布、即日施行、任期は3年(民生委員令廃止) ○第1回民生委員一斉改選
		昭和24年	○第3回全国民生委員児童委員大会(札幌市)。「花咲く郷土」「光とともに」発表 ○身体障害者福祉法制定。精神薄弱者福祉法制定
		昭和25年	○全日本民生委員連盟、日本社会事業協会、同胞援護会の三団体が統合し、中央社会福祉協議会設立(後の全国社会福祉協議会) ○生活保護法全面改正(民生委員は保護実施の補助機関から協力機関になる) ○北海道社会事業大会(室蘭市)
		昭和26年	○児童憲章制定 ○民生委員信条制定 ○北海道社会福祉協議会(道社協)設立 ○全日本民生委員連盟解散。中央社会福祉協議会(中央社協)へ参加。民生常任委員会を常設、全民連事業を民生委員部へ引き継ぐ

室蘭市		全 国・北海道	
昭和27年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室蘭市社会福祉協議会（市社協）発足（会長・宇賀金男）</li> <li>○初の住民登録実施（人口117,972人、世帯23,316）</li> <li>○室蘭市共同募金委員会が北海道共同募金会室蘭市支会として改組</li> <li>○日本赤十字北海道支部室蘭市地区結成</li> </ul>	昭和27年	○婦人民生委員児童委員代表者研究協議会（東京都）
昭和28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○養護施設敬老荘が知利別町に開設</li> <li>○福祉センターが天神町に開設</li> </ul>		
昭和29年	○昭和天皇・皇后室蘭市御巡幸	昭和30年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民生委員・児童委員協議会（民児協）を組織</li> <li>○世帯更生資金制度創設（民生委員の低所得者対策活動の有用な資源となる）</li> <li>○第1回全道民生委員児童委員研究協議会（札幌市）</li> </ul>
昭和32年	○市社協が愛のランドセル運動実施	昭和32年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道市町村民生委員協議会長会議（札幌市）</li> <li>○売春防止法施行</li> </ul>
昭和33年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昭和天皇の皇太子様（今上陛下）室蘭市御巡幸</li> <li>○市福祉事務所に婦人相談室設置</li> </ul>	昭和33年	○全道民生委員常務委員会（札幌市）
昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回社会福祉大会開催</li> <li>○民生委員児童委員研修会</li> </ul>		
昭和35年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歳末助け合い運動開始</li> <li>○新任民生委員研修会</li> </ul>	昭和35年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民児協総務制度設置</li> <li>○民生委員徽章改定</li> </ul>
昭和36年	○市社協が福祉資金制度開設	昭和36年	○活動状況報告が厚生省提出となる
昭和37年	○市社協が心配ごと相談所開設		
昭和38年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○女性民生委員主となり婦人相談職親会設立（後に女性保護の会となる）</li> <li>○社会を明るくする運動始まる</li> <li>○市社協内に北海道愛情銀行室蘭支店発足</li> </ul>	昭和38年	○老人福祉法施行
昭和39年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室蘭愛情銀行婦人部会結成式（後の女性部会となる）</li> <li>○両親のいない中学生卒業生就職激励会</li> <li>○第1回歳末助け合い市民演芸大会開催</li> </ul>	昭和39年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母子及び父子並びに寡婦福祉法施行</li> <li>○道民児連会長は官選から民選に移行する</li> </ul>
		昭和40年	○全道母子福祉大会
		昭和41年	○全道婦人民生委員児童委員研修会（札幌市）
昭和42年	○民生委員制度創設50周年記念北海道社会福祉大会	昭和42年	○民生委員制度50周年記念北海道社会福祉大会（室蘭市）
昭和44年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道新任民生委員・児童委員民協総務研修会</li> <li>○市社協が高齢者仕事相談所開設</li> </ul>	昭和43年	○在宅ねたきり老人実態調査実施
昭和45年	○児童手当支給（第1回 153世帯2,042人）		

室蘭市		全 国・北海道	
昭和46年	○市社協が「愛のランドセル運動」を「愛の入学プレゼント運動」に改称（平成27年に廃止）		
昭和47年	○室蘭市民憲章制定 ○市社協が地区福祉協議会設置（13地区）	昭和47年	○全国民生委員児童委員総会（札幌市） ○児童手当法施行
昭和48年	○市社協が愛の訪問運動および声かけ運動開始		
昭和50年	○高齢者実態調査開始	昭和50年	○全国婦人民生委員児童委員研究集会（札幌市）
昭和51年	○社会福祉事業協会設立	昭和52年	○民生委員制度創設60周年記念大会（大阪市） ○民生委員制度創設60周年を記念して、全国民生委員児童委員協議会が5月12日を「民生委員・児童委員の日」と制定 ○老人介護の実態調査実施
昭和54年	○室蘭初の特別養護老人ホーム白鳥ハイツ開設	昭和56年	○道民児連支部長会議（札幌市）
昭和59年	○「愛の訪問運動」および「声かけ運動」を「愛の一声運動」に変更	昭和58年	○老人保健法施行
昭和60年	○白鳥大橋建設着工	昭和60年	○在宅痴呆性老人の介護者実態調査実施
		昭和61年	○世帯更生資金運営協議会（壮瞥町）
		昭和62年	○民生委員制度創設70周年記念大会（東京都） ○民生委員制度創設70周年記念胆振管内研究集会（登別市）
昭和63年	○測量山ライトアップ開始	昭和63年	○全道正副総務研究協議会（札幌市）
平成元年	○地区福祉協議会によるふれあい昼食会をモデル地区で実施。翌年度より全地区で実施	平成元年	○第1回中堅民生委員教室（札幌市） ○北海道民生委員連盟が北海道民生委員児童委員連盟（道民児連）へ名称変更
平成6年	○地区民生委員協議会を12地区に再編 ○主任児童委員配置 ○室蘭市いきいき明るい福祉都市宣言	平成2年	○社会福祉関係8法改正 ○世帯更生資金を生活福祉資金制度に改称
平成9年	○新室蘭駅完成	平成6年	○主任児童委員制度創設 ○全国主任児童委員研究協議会（東京都）
平成10年	○女性部会廃止 ○白鳥大橋開通	平成7年	○新・民生委員信条策定
平成11年	○民生委員業務一部を市から市社協に移管 ○民児協会報紙「市民協だより」創刊	平成9年	○女性部会（婦人）最後の全国大会（大分県）

室蘭市		全 国・北海道	
平成12年	○民法の改正により成年後見制度施行 ○いきいきデイ銭湯事業への協力	平成12年	○介護保険制度施行 ○成年後見制度施行 ○社会福祉基礎構造改革（総務・副総務から会長・副会長に名称変更） ○児童虐待防止法施行
平成13年	○オジャマコール・サービス事業をモデル地域で実施。翌年より全市で実施	平成13年	○児童福祉法の一部改正（主任児童委員の法定化） ○配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）施行
平成15年	○子育てサロン事業の市社協との共催（ときわ地区・東地区） ○市民児協に広報部会設置 ○市民児協に児童福祉部会設置	平成14年	○個人情報保護法施行
平成17年	○住民基本台帳人口が10万人を割る	平成17年	○高齢者虐待防止法施行 ○障害者自立支援法施行
平成18年	○地域包括支援センター設置	平成18年	○「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」を全国展開
平成19年	○市が高齢者たけす隊・見守り隊事業開始 ○児童福祉部会が主任児童委員部会に改称		
平成21年	○第3地区民協（現・追直地区）が住民流支え合いマップ作成（以後、23年に第5地区と第12地区（現・御前水・御崎地区と本室蘭校地区）が、25年に第10地区（現・東明地区）も作成）		
平成21年	○高齢者サロン開設（ときわ・輪西・本室蘭地区）		
平成23年	○今上陛下室蘭市御巡幸	平成23年	○東日本大震災
平成24年	○開港150年・市制施行100年 ○11月25～27日 暴風雨災害 要支援者の安否確認・支援活動を行う	平成24年	○障害者虐待防止法施行
平成25年	○地区民生委員児童委員協議会の名称を数字から地域名へ変更 ○市社協事務所（市民児協事務局）が東町に移転		
平成26年	○認知症早期発見プロジェクトチーム結成（平成26年4月～平成29年3月）	平成26年	○子どもの貧困対策推進法施行
平成27年	○民生委員制度創設100周年記念事業総会で決定（式典祝賀会部会、記念誌部会、行事部会が発足し企画に入る）	平成27年	○生活困窮者自立支援法施行 子ども・子育て支援法施行
平成29年	○民生委員制度創設100周年記念事業	平成29年	○民生委員制度創設100周年

### (3) 室蘭市人口の推移



年	人口(人)	世帯数	65歳以上(人)				高齢化率(%)	
			男(人)	女(人)	男(%)	女(%)		
昭和22	96,722	21,290	7,526	3,664	3,862	48.7%	51.3%	7.8%
昭和25	110,443	22,540	3,251	1,463	1,788	45.0%	55.0%	2.9%
昭和30	123,533	25,352	4,059	1,784	2,275	44.0%	56.0%	3.3%
昭和35	145,679	33,315	5,091	2,310	2,781	45.4%	54.6%	3.5%
昭和40	161,252	41,334	6,377	2,824	3,553	44.3%	55.7%	4.0%
昭和45	162,059	46,414	7,397	3,266	4,131	44.2%	55.8%	4.6%
昭和50	158,715	49,019	8,969	3,970	4,999	44.3%	55.7%	5.7%
昭和55	150,199	50,238	11,182	5,037	6,145	45.0%	55.0%	7.4%
昭和60	136,208	47,743	13,448	5,841	7,607	43.4%	56.6%	9.9%
平成2	117,855	45,261	15,591	6,561	9,030	42.1%	57.9%	13.2%
平成7	109,766	45,999	18,475	7,776	10,699	42.1%	57.9%	16.8%
平成12	103,278	45,759	22,088	9,284	12,804	42.0%	58.0%	21.4%
平成17	98,372	45,266	25,272	10,705	14,567	42.4%	57.6%	25.7%
平成22	94,535	45,029	27,699	11,536	16,163	41.6%	58.4%	29.3%
平成27	88,564	43,616	30,118	12,457	17,661	41.4%	58.6%	34.0%
平成29	86,073	46,405	31,211	12,860	18,351	41.2%	58.8%	36.3%

\*国勢調査による。平成29年のみ住民基本台帳による。

## 5. 室蘭市民生委員児童委員協議会の重点取組み

### (1) 高齢者実態調査

#### 高齢者実態調査について

輪西地区民児協 小林昌樹

室蘭市では、昭和50年から民生委員が高齢者実態調査を行っていますが、何故この様に早くから、他の市町村に先駆けて行われているのか理由は分らないようです。

この様な調査は、民生委員の全道大会などで、他の市町村から来た方に同じ様な調査をしているか聞いてみても、実施している所は有りませんでしたし、ましてや、高齢者名簿の様な個人情報を出している市町村も有りませんでした。

この実態調査については、実施時期になると民生委員から、市は住民基本台帳があるのに何故この様な調査をさせるのかと何度か疑問の声を耳にしていますが、市は住民基本台帳だけでは把握出来ない高齢者や一人世帯の実状などを調べ、様々な行政施策を検討する資料として利用しているようです。民生委員にとっても、特に経験年数の少ない方や65歳になる方を初めて訪問する時など、名簿があると話のきっかけをつくり易く、併せて普段なかなかお会い出来なかった方にも会う機会が出来、非常に有難い事だと思います。

実態調査は、毎年6月になると市からの要請で行います。市から65歳以上の方の住所・氏名・生年月日などが記載された名簿を受け取り、各家庭を訪問し「独居か夫婦かなどの世帯区分」と「転居か施設入所かなどの不在理由」を調査し、場合によっては鍵の預かり先も確認します。これに加え日本各地で大災害が発生した経緯もあり、2年前から災害時に援護の必要な「災害時要援護者」の調査も市の防災対策課とタイアップして行っています。

また、訪問して気になる方には緊急連絡先や困り事が無いか伺い、時には行政の様々な福祉サービスについて説明し、緊急通報システムが必要と思われる方や生活支援が必要と思われる方には、関係先へ橋渡しをします。

しかし、近年、調査していて気になる点は、老夫婦世帯や高齢の独居世帯、要支援の認定を受けている方が年々増えている事です。これからは、地域の更なる高齢化に加え介護制度も変わり、在宅での介護や支援を受ける方が増えると思われます。

高齢者実態調査の結果は市へ報告するだけでなく、気になる方の情報は地域とも共有し今迄以上に見守りや助け合いに生かして頂きたいと思います。

## (2) 住民支え合いマップ調査

### 支え合いマップに取り組んで

追直地区民児協 信田有子

平成23年3月の定例会、14人の追直地区のメンバーは支え合いマップが完成し「お疲れさま」の言葉が飛び交っていました。12人の委員みんなのマップが揃って出来上がり、今日の日を迎えた喜びと安堵、そして達成感にしばし浸っているような晴れ晴れとした顔です。

思えば、当時の事務局と市民児協の会長さんにマップ作りを強く勧められましたが、あまりにも民生委員の仕事が多岐に亘り忙しく、これ以上の負担はという思いで気乗りのしない私でしたが、副会長から「是非やろう」と言われ、そして委員みんなの賛同が私の背中を押してくれたのでした。

住民流福祉総合研究所所長の木原孝久先生から4度現地指導を受け、今なぜ「支え合いマップ」なのか、その必要性を教えられました。

道民児連では初めての事業で、北海道から4つの市町が選ばれましたが、何もかも初めてのことで手探り状況の中、試行錯誤しながらの取り組みでした。

はたして「その成果は？」と問われると、自分で言うのもおこがましいのですが、マップ作りをしたことで、町会との関係、福祉委員、地域の人たちとの連携が密になり日々の活動がより円滑になったことです。

また、追直地区はこの支え合いマップ作りを始めてから情報交換が盛んになりましたし、自主勉強会も何度も開き、民生委員としてどこまで何をすべきかなど、悩みなどいつもの定例会とは少し違う意見などが出てマップ作り以外のことなども話し合いができました。

委員同士切磋琢磨し心を合わせてひとつの事に取り組んだことで、お互いに距離が縮まりより近い存在になり、追直地区にとって何にもかえがたい財産になりました。

いろいろな経験をさせていただいたマップ作りでしたが、全国で高齢者のためにやっていることの紹介をするとのことで、私たちのマップ作りに大変興味を持ち、こういう取り組みは全国的にも珍しいということで、みのもんたの“朝ズバッ!”という全国放送にも取り上げて頂きました。

そして、テレビに出たことで、他市町村、遠くは千葉県から問い合わせがあったり、マップ作りがきっかけで北広島市、恵庭市と研修、交流会を開いたこともあり、貴重な体験をしました。

マップ作りは多くの事を学ばせて頂きました。20数年も民生委員をしてきて私は一体何をしてきたのか、民生委員としての大きな転換期になりました。安心安全だけでなく「もっと豊かに」、「要介護になっても人は心豊かに生きたいと願うのが自然なんですよ。」また民生委員は「フォワードからミッドフィルダーに」と言う木原先生の言葉は民生委員活動の揺るぎない指針になりました。



住民支え合いマップ



### (3) 認知症早期発見プロジェクトチーム

#### “認知症 早期発見プロジェクトチーム”の活動について

ときわ地区民児協 増岡 敏 三

認知症が社会的な話題に上るようになったのは平成22年頃からだろうか。行方不明の高齢者が年間一人を超え、高速道路の逆走が頻繁に新聞記事になったりした。民生委員の見回り活動でも認知症高齢者が増えて対応に苦慮することが多くなった。ある統計によると平成28年で認知症の人が全国で520万人、その兆候が認められる人（軽度認知障害）が400万人と言われ、それが急速に増加している。国民の10人に1人、高齢者の5人に1人が認知症に悩む時代がすぐそこに来ている。更に平成27年の介護保険制度の変更で重度の要介護でも住み慣れた地域で最期を迎えられる仕組みが提起された。施設から自宅へ、公助から自助へと国の介護費用の削減へ福祉政策が大転換した。すなわち介護、予防、生活支援が地域、町内会へ丸投げされて民生委員へ負担が大きくなるのしかかることになった。市などからの制度変更による民生委員への説明や指導はほとんどなかった。

そんな折、平成26年室蘭市民児協会長会議で“認知症の人を支えて一緒に穏やかに暮らせる社会を実現する一翼を民生委員として担おう”との取り組みが決定された。“認知症 早期発見プロジェクトチーム”は小林 昌樹さん、沼田 貞子さん、信田 有子さんと増岡 敏三が担い、市社会福祉協議会、市高齢福祉課からのアドバイスを受けながら進めることとなった。民生委員と一般市民にも呼び掛けて研鑽を積むこととした。認知症はその原因が分かっていないので、治療はできないとされている。しかし発症を5年先送りしたら約4割も減らしたことになる。そして早期発見をすることにより認知症の重症化を食い止めることができると言われることから早期発見の方策を探り、重症化を防ぐ方法を民生委員が習得して地域に広げたいと一歩を踏み出したのであった。幸いにこの事業は道民児連の民児協活性化事業の指定を受けることができ、2014年度から3年間で30万円の助成金を使えることになった。研修会の開催内容を列挙すると、

#### ①平成26年8月18日

「認知症と疑われる人への対応について」

居宅介護施設“支心”施設長 川本俊憲氏 参加者150人

#### ②平成27年1月20日

「認知症の方との接し方と地域のかかわりについて」

グループホーム“アウル”施設長 宮崎直人氏 参加者150人

#### ③平成27年5月11日

「認知症の人が地域で暮らし続けることができる社会とは」

室蘭いが栗の会会長 前田節子氏 参加者200人



平成27年8月5日伊古田先生の講演

④平成27年8月5日「認知症の早期発見の方法と対処の仕方について」

勤医協中央病院 伊古田俊夫氏 参加者250人

⑤平成27年12月14日「認知症の方の見守り例の発表とそれについて医者からの助言」

本輪西クリニック 佐藤弘太郎氏 参加者160人

⑥平成28年9月17日「砂川市の取り組みから学ぶ認知症を支える地域づくり」

砂川市立病院 内海久美子氏 参加者400人

⑦平成29年3月4日「砂川市モデルに学ぶ 地域で見守る認知症」

砂川市立病院 認知症看護認定看護師 福田智子氏 参加者200人

最初の目論見からすると道半ばであったがこの「プロジェクトチーム」は3年で終了となった。しかし、世界保健機関（WHO）は今すぐ認知症対策を講じる必要があると警告している。カナダのある大学教授は「今、世界は高齢化の津波に襲われ、認知症の洪水が発生している」と指摘している。今、市、社協、包括支援センター、病院、各施設などと民生委員それぞれが出来うる方法で認知症の対処に取り組むべきであると思う。3年間学んだ中で私たちができそうなことは、砂川市の「地域連携ケアパス」とボランティアサポート「ポッケ」の活動。そしてコープさっぽろと北翔大が提起した「認知症になりにくいまちづくり宣言」は興味深い取り組みだと思う。



#### (4) 共同募金

### 共同募金の<sup>あかり</sup>灯

追直地区民児協 長 井 勝 保

毎年、10月1日から12月31日までの3カ月間、赤い羽根共同募金運動が全国一斉に実施される。

追直地区民児協にも例年通り街頭募金の協力依頼が来た。定例会で実施日と時間別参加者指名割が検討された少人数民児協なので割り振りが微妙だ。実施場所も決められている。

近年蘭西地区は、人口減少等、募金額も右肩下がりのようだ。

赤い羽根共同募金にはこの街頭募金の他に学校募金（団体）、法人募金（会社・商店）、戸別募金（町内会）等がある。募金実績額の稼ぎ頭は町会・自治会の戸別募金との事、学校募金も頑張っている。

10月4日付、室蘭民報に室蘭市共同募金委員会（加納正和会長）が2日、市役所を訪れ募金の協力依頼が行われた旨の掲載記事があった。職域募金が平成24年から始まって今年で6年目、職員の方々が率先して動いて年々募金実績が上がっている。明るい材料だ。この他忘れていけない取組みとして寄付金付きバッチ

(500円)がある、我家にも平成23年から北海道と白熊・丹頂、くじらんシリーズ、初音ミクちゃんもある。今年の室蘭カレーラーメン、大黒島もデンと座った。先日取組まれた「ふれあい昼食会」経費の約80%が「赤い羽根共同募金」の助成金で賄われている。大感謝だ。

私が今までかかわってきた法人募金活動で特に感じることもある。それは金銭感覚の違いだ。生来サラリーマン家庭で自分もその道を歩んで来た私にとってお金の価値・感覚がだいぶ違った。訪問する小売店では1個1枚の商品販売で10数円の利益の積み重ねで生計を立てている。毎年5,000円の募金額を依頼して10数年、経営状態の変化、経営者の交代などを考えると玄関先で躊躇する募金ボランティアは私一人ではないはずだ。

街頭募金活動の中にもいろいろな姿が見える。売り出しや少しでも安いもの・家計のために来た店の出入りに、街頭募金の呼びかけがある。知人や近所の顔見知りの方が通ると何となくいやだ、義理や人情が絡むようで見ないふりをしたい、募金者は身なりや外見では分からない、大抵反比例が多い、優しさや思いやりは外見ではない、その人の生き様?が見える時がある自戒を含め心しなければ…。

昭和22年から70年間、戦後荒廃した国土・人心の中から生まれた「赤い羽根共同募金」初心を忘れず、その灯(あかり)を引き継ぎながら今年もまたこの浄財を待っている方々へ届けよう。



平成28年5月15日熊本地震災害義援金の募金活動

## (5) オジャマコール

### オジャマコールと向き合って

本室蘭校地区民児協 松尾京子

平成12年12月から始まったオジャマコールは、平成26年3月に終了することを話したら、皆さん本当に残念がっていました。約11年間携わりさまざまな人たちと出会い電話を通してですが関わりを持つことが出来ました。

最初はお互いに何を話して好いのか戸惑いながらも徐々に打ち解け、話もスムーズに運ぶようになり何気ない会話が多いのですが、やはり皆さん独り暮らしの方なので普段はほとんど話す事がないと云い又、病弱な方は外出せずに家に閉じこもりっきりで3日間誰とも話をしていない“淋しいですよ”と聞くこともありました。2週間に一度のコールですが誰もが“待っていましたよ”とこちらから名乗る前に云われる程で、持ち時間を越えても話が止まらず、どこで切ろうか悩む事もあり他の委員さんも同じだったようです。時には悩みごと心配事があれば地区の民生委員さんへ連絡を入れて対処をお願いしたり、行政機関に繋いだりしました。

電話だと顔が見えない分話しやすいのか様々な会話になり励ましも頂きました。一人対一人と云う気楽さと安心で心も解放されるのかと思いながら、僅か数分間でしたが、向き合った私達も出会いに感謝です。

## (6) 子育てサロン

### ときわ子育てサロン

ときわ地区民児協 主任児童委員 出村 清美

高齢者を対象とした“ほのぼのサロン”を開催していた第2地区民児協（現ときわ地区民児協）ですが、地区会長より「こども向けのサロンを開催してはどうか？」と提案がありました。そこで、地区の民生委員に協力をしてもらい、子どものいる家庭に『子育てサロンを開いたら参加したいかどうか』とアンケートを取りました。その結果、33組の家庭から『参加したい』と回答をいただき、社会福祉協議会の後押しもあり、平成16年6月に常盤町会館で月一回の子育てサロンをスタートさせました。



寿町子育てサロン



八丁平子育てサロン

初日は5組11人の母子が参加、お手伝いの方が多かったです。支援センターの協力で手遊びなどもしていただきました。クチコミもあり、12月には19組40人もの母子でにぎやかなクリスマス会となりました。こどもの日・七夕・十五夜・クリスマス・おひなさま、季節に合った行事の工作などを楽しんでいます。平成18年度からは、月二回（第一・第二月曜）に増え、平成19年度からは“ほのぼのサロン”と一緒に港町会館でもちつき交流会を行っています。

平成26年には、10周年を記念して、子どもの名前で寄せ書きを作り、中森芳恵先生に歌のリサイタルを開いてもらい、楽しい時間を過ごしました。

平成16年、母親として9か月の息子とサロンに参加し、4年間色々な経験・楽しい交流をさせていただきました。22年からは主任児童委員としてサロン運営に関わっています。これからも、参加している母子が楽しく交流ができるサロン運営を心掛けたいと思います。



ときわ子育てサロン

## 6. 各地区民生委員児童委員協議会の活動

### えとも地区



			山内		五十嵐	高田	齊藤		渡邊		高丸	
			雄仁		優三	利光	芳和		栄樹		勲	
菅原	安達		横尾	川村	本間		松本	加藤	太田		平塚	新井田
悦子	悦子		幸子	孝枝	美江	富美子	洋子	今川	繁子	田辺	きぬ子	真理子
	羽立	西村		吉田	副会長	真田	昭	英明		安子	作野	八重子
	弘子	克子		一夫								

#### ■活動状況

えとも地区民児協は主任児童委員2名（男・女）を含めた男性9名、女性14名の23名で活動しています。平成29年3月の調べでは、地区の人口は8,304人、3,977世帯です。

地区の歴史を振り返ると、大きな造船所2社、貨物列車専用の駅、運送会社、鉄工所などが多くあり、社宅もあったことから人口・世帯数は市内でも多い方でした。

そんな中で、先人達がどのような形で民生委員に推薦され、会の運営、地区での活動をしていたのかわかりませんが、今は現役で働いている方、他団体の執行役員をしている方もいて、関係機関からの与えられた用件をこなしているだけの現状です。また、担当地区は平坦地だけならいいのですが、車の入らない複雑な坂道もあり、場所によっては空き家や廃屋が多く、高台に住まいをしている家もあり、また、一帯の家が同じ住居表示である地域もあります。

地区には5つの町内会があり、それぞれ会館を持って、多くの行事・イベントなどを行っていますが、ある町内会は環境の激変から、世帯数が減り、町会加入離れも進み、後任委員の発掘ができず、行事を続けるのに苦労しているそうです。このようなことから、住民の割合は高齢世帯が多く、学校に通う子供さんを抱える家庭が少なくなっています。

（真田 昭 記）

## ときわ地区



花嶋	北村	谷原	伊藤	青木	出村	増岡	山中	船越
良子	永子	美代子	範子	レイ	清美	敏三	晴美	朝子
鈴木	松橋	今野 <sup>副会長</sup>	高橋 <sup>会長</sup>	榎田 <sup>副会長</sup>	宮野	石塚		
富美子	カツ子	孝之	國夫	満子	典子	則子		

### ■活動状況

ときわ地区は主任児童委員を含め定員17名（現在欠員1名）で運営している地区民児協です。「ほのほのサロン」、「子育てサロン」の活動を10年以上続けています。毎年1月には両サロン合同で親子3～4代での餅つき会を行っています。さらに平成27年からは銭湯利用者の送迎を継続して実施しています。

定例会は基本的に毎月第1金曜日（会長会の翌日）午後1時半から開いています。昼に定例会を開いている民児協は少ないと聞いていますが1～2時間中身の濃い例会だと思っています。日々の活動で困っている事の相談や事例報告があり全員が自分の問題であるかのような真剣な意見交換があります。定例会の司会進行は輪番制で行っており毎回例会の最後に次回の日程と司会を決定しています。

定例会以外でメンバーが集まる機会としては新しい施設が出来た時などに行う施設見学研修、年数回の懇親会があります。恒例となっているのは1月定例会後の新年会ですが、その他に高齢者実態調査後など3～4ヶ月程度の間隔で焼き鳥屋めぐりをしています。所謂「飲み会」なのですがつつい話題が定例会の延長のようになることが多いです。

（高橋 國夫 記）

## 追直地区



加藤  
義信

西尾  
正勝

谷口  
直子

山川  
久美子

大磯  
八千代

上田  
久美子

酒本  
知子

遠藤  
ユウ子

笠間  
順子

副会長  
長井  
勝保

会長  
信田  
有子

副会長  
佐藤  
紀恵子

見延  
静枝

難波  
孝枝

### ■活動状況

我が追直地区は、14人のメンバー構成で少数精鋭を自負しています。それぞれ個性を発揮しつつ、地域においては住民の人達に寄り添い信頼される民生委員として、温かい心で活動に励んでおります。月1回の定例会では、バウムハウスの宮崎施設長の「必要としていることを伝え合うのが会議」との教え通り、それぞれの地域で起こった問題点、また、悩みなど意見を出し合い活発な議論が飛び交います。支え合いマップ作りに取り組み、試行錯誤しながら、みんなで一つの事を成し遂げた達成感を味わい、委員同士の団結力に繋がりました。これは何にも勝る追直地区の財産と思っています。頼りない会長の脇をしっかりと支え、副会長はじめ委員のみんながサポートしてくれる、私にとってはかけがえのない追直地区14人の仲間達です。これからも、気負わず明るく楽しくをモットーに追直地区は未来へと脈々と受け継がれていきます。

“地域と共に 100年 これからも”

(信田 有子 記)





## 御前水・御崎地区



小林  
美喜子

佐伯  
真由美

堀内  
ちさ子

船水  
玲子

赤木  
美幸

竹内  
洋子

副会長  
沼田  
貞子

会長  
浅野  
壽男

副会長  
大脇  
康志

藤井  
純子

### ■活動状況

平成26年4月に「ココサロン御前水」が日鋼御前水クラブにて月1回開催され毎回30～40名程が参加しております。毎回いろいろなイベントが組まれて笑いがたえず友好的な雰囲気です。「ふれあい」になっています。参加者も一人暮らし、夫婦、他の地域からとさまざまです。年齢も65歳から90歳と幅広く、男性の参加も多く特にカラオケの時は10～15名程の参加があります。

福祉委員さんも開始の2時間前からきて、「利他の心」で頑張ってお準備をしています。開始はラジオ体操から始まります。

今日の出し物は、ひょっこ踊りです。笑もたえず、笑うから楽しく、笑いには心までときほぐし、初参加でもすぐに打ち解けあいます。サロンでの談笑は快適な体をつくり、おしゃべりでホルモンが分泌され、ベータエンドルフィンも分泌され体の免疫力も高まり、健康づくりにも役立ち、心もリフレッシュされ今日一日みんなが楽しい気分になります。また認知症のはじまりは心の感動がなくなるからだとも言われておりますので、笑いの感性があれば大丈夫。

ココサロンは自然治癒力があり、会う楽しみで高齢者も元気になっています。

終わりは、みんなと替え歌で合唱し、上手いと自分で褒めて満足しています。帰りは共助で手を取りながら次回の再会を楽しみにトボトボと歩いて帰っていきます。

(浅野 壽男 記)

## 輪西地区



松永 美代子	五十嵐 敏江	松浦 菜穂子	曾ヶ端 キミヨ	西城 恵子	佐々木 誠	吉岡 正子	福山 錦子	佐々木 牧子	二瓶 奈緒美	故 上村 勝義
三浦 照美	松田 清	副会長 谷澤 和重	会長 日沼 勉	副会長 余語 奈穂子	小林 昌樹					

### ■活動状況

「おはようございます。」今日も子供見守りパトロールへ出発していきます。

朝の散歩をしている高齢者の方々や大沢小学校や翔陽中学校へ登校する子供達とのあいさつ、会話が楽しい日課となっています。時には曇った顔に元気になってほしいとの思いで話し込んでしまうこともあります。そんな活動も続き、地域の方にも顔を覚えて頂き様々な相談等を受けさせて頂けるようになりました。

一人暮らしの高齢者宅への家庭訪問や母子家庭への支援等様々な繋がりの中かで活動させて頂いています。大沢町、みゆき町と山坂の多い地域ですが、私たちの活動が地域の方々の理解を頂き、困ったときの一助となれるような存在になっていければと思います。

これからも、三代目が繋がり、安心して暮らしていける地域のため共に活動を進めていきたいと思っています。

(余語 奈穂子 記)

## 東地区



	川浪	松並	斉藤	橋本	橋本	坂	荒瀬	中川	
	清恵	圭子	恵子	恵子	正敏	あけみ	香里	武夫	洲崎
中村	渡辺	須波	高柳	高本	井谷	北川	鹿野	幸枝	利恵
吉幸	のり子	晴夫	日出夫	将機	静子	洋子	米谷	池田	玲子
	佐藤	山崎	副会長 中田	会長 松本	佐藤	副会長 佐藤	昇子		
	榮貴雄	禎恵	勝四郎	よし	克雄				

### ■活動状況

東地区民児協のメンバーは28人ですが少し欠員が出ています。女性が多く、男性はだんだん少なくなってきています。

活動としては、共同募金、子育てサロン、研修会2回、それに地域包括支援センターが年6回（2ヶ月に一度）来て委員の相談事のお話をしてくれます。活発な意見が出ます。

子育てサロンは委員の方、地域の方、町会の方々が手伝ってくれます。

そして、皆さんと親睦を図る場として新年会、研修会兼観楓会を行い意見交換の交流をしています。大いに楽しんでいます。

私達は地域の方と行政の橋渡し役をする役目です。

また、昨今、個人情報などで中々難しい課題を抱えています。人様のお世話をする事は責任があります。これからも少しでも地域の人々のお役に立てればと願いながら活動をしていきたいと思ひます。

（松本 よし 記）

## 中島・八丁平地区



秋村 洋	伊藤 雄三	佐々木 良一	小田巻 武史	野代 榮	寺崎 守	長谷川 慎一	米代 政敏	宮道 寿	手塚 英雄
齋藤 眞澄	小畑 早苗	沖本 ヨシ子	佐々木 里美	高橋 祥子	田中 晃	大道 智子	田野 幾子	中村 恭子	鮎岡 艶子
村上 孝志	中川 恵美子	神尾 紀恵子	前田 利秋	直江 昭憲	上野 正春	後藤 隆夫	てる子 邦彦	阿部 保子	渡邊 咲美

### ■活動状況

当地区はJR東室蘭駅西口から室蘭岳方向の中島町、中島本町、宮の森町の一部、八丁平、高平町の地域で、小学校2校、中学校1校、高等学校1校、養護学校1校を有し、室蘭を代表する大型店、スーパーなど商業施設が立ち並び加えて総合病院と多数の医院、ホテル、アパート群、個人住宅が密集している地域です。また、再開発事業も着々と進み街並みが顕著に変化し、今ではらんらん橋中心に住民の憩いの場になっています。この様な環境のもと民見協の定員は30名で、うち女性13名、バラエティーに富んだ人材が多く活性化に大きく寄与しています。定例会は毎月第2木曜日に開催し、受付、進行、信条の3担当を年間割り当てで全員が受持ち、定例会は信条唱和でスタート、市民見協会長会議の報告伝達、取り纏め、研修協議では各委員からの日常報告、行政や関係福祉機関・団体の研修や協議、中学校の教育実践と生徒指導等の校長懇談等々、年間計画を立てて運営し、緊急事項は随時議題にしています。親睦会を「親和会」と称し、施設見学、一泊研修、新年会等で会員相互の親睦を図っています。明るいニュースとして、向陽中跡に“生涯学習センター「きらん」”がオープンし福祉的活用に繋がると期待しています。特徴点はOB、OGの先輩が「ポプラ会」を結成し現委員との連携を持ちパークゴルフやボウリング、懇親会、一泊研修にも参加して活発な交流を深めています。

(上野 正春 記)

## 宮知地区



		大田	関口	花野	猪狩	大岡	
		敏子	洋子	由香	裕子	武美	中田
中村	谷藤		高橋	山平	奈良		博子
尚幸	豊	副会長	加代	博美	千鶴子	光城	
東野	沼尾	斉藤	今野	副会長	副会長	圭一	横関
玲子	亘	知江子	幸男	るい子			恵美子

### ■活動状況

私達宮知地区民生委員児童委員協議会は、楽山を中心にごろりと一回りする地域の住民で構成されています。平成6年に大所帯となった中島地区から分離し、現会長は2代目になります。今野会長を筆頭に男性5名、女性12名が在籍し3年前より若い委員の確保に全員一丸となり取り組んできました。その結果、現在は17名中、40代・50代の委員が半数に届こうとしています。これは次世代を育成するという事はもとより、その先を見据えるとても心強いこととなりました。又、全員にいろいろな役割を担ってもらうことで各々の負担を減らすとともに視野を広げてほしいとの会長の考えから研修会・懇親会・その他の会合に役職の有無を問わず送り出すよう心掛けています。

さて、17名という小さな世帯の定例会はといいますと、以前とは少し異なった趣となりました。まずは世代間の考え方の相違に驚き、又、頷き、又、考えさせられました。新鮮な風が吹くのも又“善し”と思われる今日この頃です。

この様に見渡す限り信頼の置ける仲間たちですが、前述通り半数の入れ替わりがあり横の繋がりが強いとはいえません。今後はその繋がりをより強め“行って楽しい定例会”を目指し手に手を携えて邁進していきたいと思います。

(副島 るい子 記)

## 東明地区



新町	佐藤	山田	高橋	藤上	菅原	沓澤	高橋	水谷	佐藤	
良博	多佳子	信弘	高一	忠与志	徳彦	幸成	光幸	裕司	壽昭	小野
佐藤	武田	有田	吉岡	木村	順子	市川	佐藤	圓山	清水	環
浅利	長井	久美子	副会長 ユキエ	宮澤	千恵子	千恵子	真佐子	弘美	美代子	金濱
代利恵	工藤	川村	渡辺	和義	水木	水木	大嶋	土屋	真知子	代志子
早坂	朱美	博道	順子		敏夫		源三			
洋子	小野寺るみ子									

### ■活動状況

当地区は、平成7年に知利別地区を含めての合併・分離があり、現在の高砂町、水元町、天神町の範囲に策定され、委員31名（主任児童委員2名）で活動を行っています。

室蘭市の中でも、「文教地区」と言われており、小中学校3校、聾学校、高等学校2校、市立室蘭看護専門学院、室蘭工業大学があるので若者が多く、活気に溢れております。

平成16年から地区会長を務められた荒井貞夫氏によれば、学童など、地域の安全・安心見回りが重要と、翌17年には民児協のマークを貼付した黄色のヤッケとベストを全委員に貸与してパトロール活動が開始されました。現在でもその意志を継いで毎日のパトロールは引き継がれ委員活動の基本となっております。

運営としては毎月10日に定例会を開催し、年度計画を立て下記項目を推進しています。

- ・事例報告と意見交換
- ・各種研修への参加・研鑽
- ・学校授業参観
- ・福祉施設見学
- ・災害募金活動
- ・委員同士の懇親会

また、平成25年には川村博道前会長の下で「住民支え合いマップ活動」に取り組み、現在も活動の基本としております。

上記活動やマップ活動の評価を受け、関連する行政の支援もあり、平成28年度の第85回民生委員児童委員全国大会（香川県）にて、“優良地区民児協表彰”を受賞させていただきました。

これを動機付けとして今後も委員一同一生懸命活動に励んでいきたいと考えています。（宮澤 和義 記）

## 本輪西地区



石田	工藤	石戸谷	後藤	市橋	日笠	荒谷
晴子	富勝	勝治	幹彦	隆	一美	恵美子
	西村	山口	大泉	高畠	前田	佐々木
	巖	宏美	寛	智子	優子	郁子
池田		副会長 豊川	会長 齊藤	副会長 宮林	中島	廣瀬
誠子	川元	友治	勇	秀子	千秋	清五郎
	待子					

### ■活動状況

本輪西地区民児協は男性14名、女性11名の合計25名の委員で構成されています。そのうち5名は昨年12月に就任した新任の委員ですが、今は先輩委員に負けずに、精力的に活動しています。

担当区域は、本輪西町・港北町・柏木町・幌萌町・神代町・香川町とかなり広範囲に亘っており、各委員はそれぞれ創意工夫しながら、愛の小鳩の印を胸に、使命感に燃えながら献身的な活動を続けています。

毎月1回の定例会はまず「民生委員信条」の唱和に始まり、会長から当月の会長会議の報告があり、各担当委員からも報告や提案等があります。

その後、事例発表があります。毎月2名ずつ各担当区域での具体的な活動状況、問題点、特殊な事例等について発表があります。

この事例発表の良いところは、各委員の活動上発生した問題点や悩みを一人で抱え込まずに、委員皆で情報を共有することによって、思いがけない解決策が見いだせる事です。他の委員からの適切なアドバイスを受けて問題が解消した事例も何件もあり、今後も是非続けていきたいと思っています。

例会の最後に民生委員の歌「花咲く郷土」を合唱して、「明日からまた心をつなにして、明るい地域づくりに努めよう」を合言葉に散会となります。

(齊藤 勇 記)

## 本室蘭地区



	今井		野上		若江		傳法谷		林		伊庭野		佐藤
	紀義		詠子		祥子		啓一		義彦		陽子		京子
遠藤	三浦	伊藤	角田	副会長	佐藤	鳴海	会長	松島	副会長	高木	田村	元江	松本
哉子	榮子	信子	紀久男	松尾	良子	静子	田中	みどり	寺山	ひろ子	松岡	カヅ子	
野呂	高木		京子			聡	謠子			博子			
進	活子												

### ■活動状況

ニュータウンとして開発された白鳥台地区を中心に陣屋町、崎守町、石川町を21名の民生児童委員と主任児童委員2名で地域住民の相談等を関係機関への橋渡しや、見守りのなかで悩みや心配事が少しでも減り一人ひとりが笑顔で暮らせることを祈って日々活動しています。

平成23年から「支え合いマップ」に参加し、民生委員として必要18事項を調査しマップに載せ最低年1回は定例会とは別の日に全員参加で情報交換を、又福祉委員さんと一緒にする社協用マップは個人情報の関係から記載は4事項だけです。

平成28年から地区単独事業として特別養護老人ホーム「白鳥ハイツ」の協力を得て「サロン」を開設、主旨は「世代間交流といつでも助けてと言えるように」です。参加年齢は65歳以上どなたでも、子供は小学3年生以下で出来れば親同伴にしています。嬉しいことに退任された元民生委員が出席して和やかな雰囲気してくれます。

地区協議会として年6回の自主研修の他、一泊研修旅行があり、これは幹事さんの腕の見せどころですし、特別な事がない限り絶対参加です。定例会は、出席した以上一言でもいいから発言する事、配付物は必ず目を通すなど最低限の約束事で楽しんでボランティアが出来る様にしています。

(田中 謠子 記)



## 7. 部会の活動

### 生活福祉資金部会



谷本 町子      橋本 恵子      山平 博美      安達 悦子      吉岡 正子      高木 ひろ子

松橋 カツ子      工藤 朱美 副部長      加藤 義信 部長      沼田 貞子 副部長      河野 良正      前田 利秋

#### ■活動状況

昭和30年より社会福祉協議会と私たち民生委員児童委員が協働で取り組んできたのが「生活福祉資金貸付制度」です。

この制度を利用できる世帯は、低所得者を始め障がい者、高齢者の方々です。発足当時は、低所得者世帯等に対する経済的自立と生活意欲の助長と促進のためでしたが、今日まで幾度か時代に沿った制度改正が行われてきました。

今日段階での制度の概要は、①総合支援資金、②福祉資金、③教育支援資金、④不動産担保型生活資金などの貸付制度の種類があり、貸付の対象は世帯であります。

これらの資金を利用して自立した生活ができるように活用すること、そして計画的に償還していくことが求められ、民生委員児童委員は社会福祉協議会と連携した相談支援が中心で地域住民の生活全般に配慮した地域福祉の推進が図られるようにする重要な活動です。

市民児協の各地区から生活福祉資金部員を出していただき、12名で道社協主催の研修会には全員が出席して研鑽を深めているところです。

部員の方は、新しくなった方や永く関わってきた方などこの制度の理解度には差があるのが現状ですが、今日生活困窮者が多くいるなかで、今回の100周年目を期に更なる前進のためにお互い努力していくことを決意して「信条」にある、生活上の相談にのり自立の援助に努めていきます。 (加藤 義信 記)

## 主任児童委員部会



河内	佐藤	齋藤	花野	猪狩	谷口	山中	青山	長野	赤木	鈴木	松永	二瓶
京子	久美子	眞澄	由香	裕子	直子	晴美	キヨ子	恵	美幸	仁美	美代子	奈緒美
齋藤	遠藤			出村			川合	田辺	大脇	山内		
恵子	哉子			清美			徹	安子	康志	雄仁		

### ■活動状況

主任児童委員部会は児童福祉部会からのスタートでした。発足時各地区1名選出のため民生児童委員プラス主任児童委員の構成でした。現在は、平成6年1月に制度化された主任児童委員24名（欠員1名：23名在籍）で構成されています。

全体としての活動は、年3回の研修、子育てマップの作成（現在は“こたろー”）、子育てサポーター（健診未受診乳幼児への働きかけ）、子ども発達支援サポーター（発達に課題のあるお子さん保護者への支援）、年4回の各地区ごとの情報交流。

また、それぞれの地区におきましては、地域の子供たちが元気に安心して暮らせるよう、子供や子育てに関する悩みの相談に応じたり、必要な制度やサービスにつなげ、関係機関と担当の民生委員児童委員との連携を密に取り組んでいます。虐待など要保護児童対策地域協議会の個別支援会議も要請があれば参加し、身近な地域での見守り活動や虐待の予防・再発防止に取り組んでいます。

対応する子どもや保護者の方々との信頼関係を築き、地域のために明るく元気に支援できますよう、100年もの歴史ある活動に微力ではありますが参加できることを励みに日々一層気を引き締め活動していく所存です。

（遠藤 哉子 記）

## 広報部会



伊庭野陽子

本間美江

部会長  
浅野壽男

繆岡艶子

### ■活動状況

平成11年8月に広報紙「市民協だより」が編集委員、第1地区阿部千恵子、第8地区中川恵美子、第10地区片石博3氏により創刊号として発行されました。平成11年12月には名称が「かけはし」に変更になり現在に至っております。

「市民協だより」を開いてみますと、地域についての支援活動や取組み実例などの活動が報告されています。先達のご苦勞を知ることができました。

地域社会においては人と人のつながりが希薄化するなかで、孤立、貧困、ひきこもり、虐待など多くの福祉課題や生活課題が起きています。地域における交流や支え合いは孤立、いじめ、虐待などを防ぐ有効な手段でもあります。このような活動の報告を頂きながら、地域福祉の担い手としての民生委員児童委員の活動を広く他の関係機関や地域住民に理解してもらえる広報紙にしていきたいと思っています。

また、他地区の民生委員児童委員の活動記事が共有の情報として、色々な課題の解決に役立てればと願っています。

編集会議は4名の委員さんで、熱のこもった発言や、編集の趣旨、構成内容、割り付けなどを話し合いながら、読んでみたい内容にしていきたいと考えております。

これからも当番地区から原稿を頂きながら、広報活動の展開に向けて研究し周知方法の充実に努めていきます。広報紙が民生委員児童委員の活動を進めるための一助となれば幸いに思います。

(浅野 壽男 記)

## 8. 叙勲および厚生労働大臣表彰の受賞（過去10年以内）

### ■叙勲 瑞宝双光章（社会福祉功労）

平成25年秋 武岡 昭吉

### ■社会福祉功労者厚生労働大臣表彰

平成22年 本堂 ミツエ  
鈴木 由和  
斉藤 教喜  
益子 博  
近藤 和子  
平成24年 神尾 紀恵子  
平成27年 佐藤 洋子

### ■民生委員制度創設90周年記念厚生労働大臣特別表彰

平成19年秋 荒井 貞夫

### ■100周年記念表彰者

#### ◎特別感謝（6名）

佐藤 榮貴雄 東地区民児協  
沼田 貞子 御前水・御崎地区民児協  
青木 レイ ときわ地区民児協  
日沼 勉 輪西地区民児協  
大岡 武美 宮知地区民児協  
増岡 敏三 ときわ地区民児協

#### ◎感謝（5名）

佐藤 寛 御前水・御崎地区民児協  
信田 有子 追直地区民児協  
中川 恵美子 中島八丁平地区民児協  
中島 千秋 本輪西地区民児協  
高畠 智子 本輪西地区民児協

## 9. 100周年記念事業

### (1) 記念式典・祝賀会

平成29年9月23日(土) 蓬峯殿において開催した。

室蘭市長はじめ来賓各位と各団体、施設などの関係者、新旧民生委員児童委員など250名余りの参加のもと、15時から記念式典が執り行われ、11名の功労者に対して感謝状を授与し、厳粛な中で滞りなく終了した。

引き続き、室蘭神楽保存会による室蘭市指定民俗文化財である神楽「鯨神の舞」のオープニングにより記念祝賀



上野会長挨拶



感謝状・特別感謝状贈呈

会が始まりました。祝宴のアトラクションとして、地区民児協による日本舞踊、“民生委員の歌”斉唱などが華やかに和気あいあいとした雰囲気の中で披露された。

参加者は、100年に亘る活動の歴史と伝統を噛みしめ、更なる未来に向けて決意を新たに、盛会のうちに閉会した。



本輪西地区民児協による合唱



東明地区民児協による合唱



鯨神の舞



鯨神の舞

## (2) 行 事

### 1. パークゴルフ交流会

開催日 平成29年7月5日(水) 室蘭花の丘パークゴルフ場

参加者 49名 運営手伝い7名 合計56名参加

### 2. 室蘭夜景見学バス

1回目 平成29年8月26日(土) 71名

2回目 平成29年9月2日(土) 37名



パークゴルフ交流会 開会式



陣屋除雪ステーションからのJXTGエネルギーの工場夜景



パークゴルフ交流会 閉会式

## 10. エッセイ 明るい未来へむけて

### ■「ネット社会と今後の民生委員活動」

えとも地区 今川 英明

今年で、民生委員制度創設100周年を迎えられたことは、先輩民生委員の使命感と努力があって、今日まで継続できたのではないのでしょうか。

しかし今日、民生委員の担い手不足など、さまざまな問題があるなか、ネット社会は急速に進化し、行方不明になった高齢者をスマートフォンのアプリを使って検索する実証実験が実施されると、新聞報道がされました。そのことは大変良いことだと思いますが、いくら時代が変化しても、民生委員の活動は無理せず肩の力を抜いて地域の仲間として一緒になって相談にのり問題解決に当たっていくことが大切ではないのでしょうか。

### ■「未来志向の笑顔」

ときわ地区 谷原 美代子

数年前、私の父はホスピス病棟で日めくりカレンダーの一枚を破り明日を確かめることが日課だった。父の頭の中の未来は明日一日だけだったのかもしれない。高齢者と未来という言葉は繋がりにくい。先日訪問したAさん(84歳男性)は、3か所の病院を掛け持ちしている。「先生の話を知ると安心するし、与えられた命だからね。」決して弱音を吐かない。その笑顔は何故か私の父と重なる。たとえ病と闘っていても前向きだ。未来がたった一日だけでも明日という未来を持てる小さな幸福。「あの時こうしなきゃ良かった。」と過去を振り返ってしまう私にとって、Aさんの笑顔は昨日と違う明日という未来を教えてくれる。

### ■「明るい絆を目指して」

追直地区 谷口 直子

私は主任児童委員になり8年目になりますが、月一度行われる地区の定例会で民生委員の方々から多くの事を学ばせて頂いています。私たちの地区の委員の方々は、とても明るく、定例会も和気あいあいとした中、様々な情報交換が行われます。地域の高齢化も進む中、大変なご苦労もあると思いますが、委員の方々は明るく情熱をもって取り組んでおられます。私は、そこに委員の方々の人柄の優しさと、地域への温かい眼差しを感じています。この委員同士の明るい思いやりの絆こそ、現代希薄になっている地域住民の絆へと繋がっていくと思うのです。私も主任児童委員として、明るい絆を目指して活動していきたいと思っています。

### ■「これからの抱負」

母恋地区 小笠原 秀俊

高齢社会における民生委員児童委員を知ってもらうにはどうしたらよいのでしょうか。平成29年5月29日室蘭市母恋地区の「高齢者の生活上の不安とその対応に関する調査報告」を受けまして、考えさせられることが多々ありました。高齢者は今何を求めているのかを知ることの重要さと民生委員児童委員の存在や活動を知ってもらう取り組みを早急に構築することです。民生委員児童委員自身も然り、地域住民も漠然と捉えていることは我々の責任であると思っています。そこで、早急に地域ネットワークづくりに努めることが重要であると思っています。

## ■「ふれあいを大切に」

御前水・御崎地区 浅野 壽男

地区の山側は風光明媚で自然環境も良いのですが、高齢化と空き家も多く過疎化も進んできております。今住み慣れた地域で安心して暮らせる生活環境が求められてきているが、話し相手も頼れる人もいない一人暮らし高齢者も多くなっています。高齢者の世話をする人が誰もいなくなるという状況にはしたくないものです。近所住民の世話焼きさんの力を借りて見守り態勢を構築し高齢者を支える地域福祉づくりが必要になってきています。頼れるのは住民です!!時の流れのように身を任せている高齢者を支えてくれるのは遠い親戚より近くの他人です。地域のふれあいを大切にしながら「近所の底力」を発揮し、住み続けたいと思う町づくりが望まれています。

## ■「今できる小さな関わりを大切に」

輪西地区 二瓶 奈緒美

「みんなそろって、いただきます。」年に数回、「サロンぷらっと」へ遊びに訪れる地域の保育園の子ども達。年配の会員さんも子ども達と並んで昼食を食べる。色々な世代の束の間の交流会。子ども達の笑顔やハイタッチをする小さな手のひらが、周りの大人達に元気を分けているように見える。100年前は大家族が当たり前にとつ屋根の下で暮らし、近所の子ども達とも賑やかに過ごす場があちこちに在っただろう。しかし現在の環境には沢山の課題が溢れ、こんな交流さえ貴重なのだと考えさせられる。せめて少しでも地域の人達が安心して笑顔で共生できる社会になるように、私なりに精一杯携わっていきたいと思うのである。

## ■「これからの進み方」

東地区 橋本 恵子

私は民生委員を受けてから、4年半くらい過ぎてきました。何もわからず先輩の方々に、アドバイスを受けながら進んできた毎日です。最近の高齢者は、色々な方がいることを知り対応の仕方を考えるようになりました。一つには、自分の生活のしかた、話し相手、心配事などを地域包括支援センターや市役所へ相談するパイプを一つでも多くもつこと。そのことが解決の糸口になると良いと思っております。個人情報保護法により関わることの出来ない人に対してどうしたら良いかは、これからの課題になると思います。自分ができることは、一人でも多くの方とお話ができ、心にゆとりを持って笑顔で声掛けが出来るように活動をしていきたいと思っております。

## ■「町内会と民生委員の関わり」

中島・八丁平地区 佐々木 里美

平成28年に任命された新人です。担当地区に転居して3年。町内会行事でお会いする高齢者は知っていますが、それ以外の方とは面識がありません。まずは皆さまに覚えて頂き、私自身も皆様を覚えなくてはならないと思います。そこから徐々にいろんな話を聞けるようになればと考えています。私の町会では、民生委員を引き受けてくれる人が少ない原因の一つに町内会から選出される事にあります。加えて町内会への加入者が少ない事も原因です。マンションやアパートに住む若い人達をどう取り込んでいくのが課題です。若者達は民生委員とは何なのかを知りません。もっと市民が民生委員の役割を知ることが大切で行政がPRし周知していくべきと思っています。



## ■「同じ親として」

宮知地区 猪狩 裕子

私には3人の子供がいる。大学生と高校生2人。子育て真最中で親としてはまだまだ未熟だ。一生懸命頑張っても何故かうまくいかなかったり、自分だけが上手くいかないような気持ちになる時もある。つまり、私が主任児童委員を受けたのは子育てに自信を持っているからではなく、むしろその逆を実感しているからだろう。主任児童委員として、また、同じ親としてサポートが必要な所へ行き顔を見て話す。「大丈夫よ」と心を寄せる。そうやって直接会うからこそ伝わる安心感があるのだろう。私は、気負わず焦らずやっつけていこう。知識と経験を重ね続けよう。いつか頼れる主任児童委員になる日を目指して。

## ■「『地域と共に』私も実践に向かって」

東明地区 長井 亜希子

民生委員の活動を始めて、もう少しで半年が過ぎます。研修会や先輩委員の方々から沢山の事を学び日々奮闘しております。先輩たちの築いた100年もの長い歴史の中、今も変わる事のない「地域の身近な相談相手」として私も活動できることを誇りに思います。私自身まだ子育て中で、障害者の母もおります。地域の中で支えられて生活している事を肌身で感じております。これからは、家族形態の多様化が進み民生委員として求められる役割も多岐にわたると思います。常に相手の立場になり、考え行動し住み慣れた街で安心して暮らせる様、地域の方々と協力して共に支えて行く事が出来る様、日々努力していきたいと思ひます。

## ■「100年後の民生活動は？」

本輪西地区 後藤 幹彦

民生委員制度が創設されて100年。現在まで営々と築いてこられた幾多の先達のご苦勞には唯々頭が下がる。さてこれからの福祉活動はどの様になるのか展望してみた。社会の進歩と変化に伴い活動内容も大きく変わるだろう。人口は減り続け、少子高齢化は一層加速し、人口構成は極端な逆ピラミッド化し、平均年齢は100歳を超え、老々福祉が当たり前になるだろう。100歳の高齢者の安否確認を100歳の民生委員がやっているかも知れない。そしてその頃にはAI(人工知能)機能が組み込まれた福祉ロボット、介護ロボットが大活躍している事だろう。ロボットが人間を介護する時代が、いずれやって来る。SFの世界が現実になる。

## ■「活動のバトンを未来へ」

本室蘭校地区 伊庭野 陽子

民生委員制度が100周年を迎えられたのは、先達の地道な活動のたまものであると感謝と尊敬をしております。初めの一人から次の人へまた次の人へと活動のバトンが何十代にもわたって受け継がれ、今に至っていると思うと身が引き締まる思いでいっぱいです。そして今、なぜか私とそのバトンを握っています。よろよろと足取りはおぼつかなく、つまづきながら進んでいますが、先輩委員の助言や地域の人達の好意に助けられています。いずれは立派に成長し堂々と次の人にバトンを渡す事が出来るようにしたいと思ひています。そしてこのバトンが皆様の支え合いの心でいつまでも途切れることなく続いて行くと私は信じています。

## ■ 記念誌部会



手塚 陽佑      小島 雅彦      真田 昭      長井 勝保      榎田 満子      沼田 貞子

小林 昌樹      宮澤 和義      上野 正春      大嶋 源三      信田 有子

## ■ 編集後記

この度の記念事業にあたり、記念誌作りの栄誉を担わせていただき誠にありがとうございます。100年を振り返ると、私たちの祖先は太平洋戦争前後の激しい動乱の時代を生き抜き、苦勞を重ねながら現在の日本を築き上げてきました。そして今、民生委員活動に力を注いできた先達を想うとき、星霜ここに一世紀、その偉業を称えご勞苦とご尽力に衷心より厚く感謝申し上げます。

私たち編集委員は、室蘭市史を紐解くことから始め、当協議会の礎を築いた諸先輩の道のりをたどり、荒波にもまれ難航の末、ここに上梓の運びとなりました。

未来への新たな船出にあたり、本誌が海図としての推進的な役割を担うことができるならば幸甚の至りでございます。  
(記念誌部会一同)

## ■測量山ライトアップメッセージ



平成29年5月12日 測量山ライトアップ

民生委員児童委員は、一世紀の節目を迎えました。今日までご苦労された先人の功績に感謝し、「思いやりの心」を基本にバトンを受け継いだ私たちは「日々の暮らしの困り事を親身に」受け止め、お手伝いに努力させていただきます。

どうぞお気軽にお話しく下さい。

～地域と共に 100年  
これからも～

平成二十九年

室蘭市民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員は、一世紀の節目を迎えました。今日までご苦労された先人の功績に感謝し、「思いやりの心」を基本にバトンを受け継いだ私たちは「日々の暮らしの困り事を親身に」受け止め、お手伝いに努力させていただきます。

どうぞお気軽にお話しく下さい。

～地域と共に 100年  
これからも～

平成二十九年

室蘭市民生委員児童委員協議会

## ■室蘭市いきいき明るい福祉都市宣言

わたくしたちは、心身ともに健康で  
やすらぎのある生活をおくれるまちが願いです。

市民一人一人は、すすんで自らの健康を保ち、  
明るくうるおいのある家庭をつくり、  
互いに尊重し思いやりのある心を持ち積極的に社会参加をし、  
ふれあいとあたたかい地域社会をめざして、  
だれもが安心して暮らせる生きがいのある  
まちづくりにつとめます。

ここに、室蘭市を「いきいき明るい福祉都市」とすることを  
宣言します。

(平成6年3月31日制定)